
日曜日の雨

河神隆志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日曜日の雨

【Nコード】

N1796E

【作者名】

河神隆志

【あらすじ】

日曜日の雨に友人から届いたメール。友人からの哀しい告白に揺れる主人公。気がつくくと雨に打たれて哀しい日曜日が周囲に広がっている。今日、この雨が降りしきる意味はなんだろう。必然はなんだろう。

今日は朝から空がぐずついついていて、車窓から満開の桜の木々もどこか湿度を含んだ儂さを湛えている。

もう少し、この空の機嫌をほったらかしにしたら、きっと泣きだすだろうな。

僕もそうしたら泣きだしてしまうかもしれない。

プラットホームで電車を待つ間、何気なく腰かけたベンチのひとつ空けて隣の青年は俯いて涙をこらえていた。

激しい悲しみをしゃくりあげるようなものではなく、今日の曇り空のようなごくごく静かな哀しみをそれでも懸命に堪える姿に胸が締め付けられる。

「どうしたの。何がそんなに哀しいの。」

気づかぬふりをして前方をぼんやりと眺めたまま、僕は心で彼に問いかける。

「哀しいね。とても哀しいよね。」

今朝、改札を過ぎるあたりでメール受信を告げるバイブレーションが振動した。

僕の友人は心の風邪をひいて、入院していたという。

今日は気分がいいからどこかへでかけないか。話したいことがたく

さんあるんだ。

突然の告白には似つかわしくない絵文字がぎこちなくちりばめられたそのメールは僕の心を締め付けた。

二つ返事で落ち合う約束をしてからホームへと降り立つ階段が少し揺らいだような気がした。

気丈な友人の辛さが溢れだしてしまったその瞬間、僕は一体何をしていただろう。

でもきつと僕もそうなったときに友人と同じ事後報告をするだろうな。

今日、世界は哀しみで満ちているのかもしれない。

車窓にぽつりと小さな雨粒がはりついた。

いよいよ降り出すようだ。

わつと降り出した雨を今日の悲しみの涙にして、僕は友人といつも通りの感じで落ち合うだろう。

でも、きつと今日の雨は僕たちを代弁してくれるだろう。

僕たちだけじゃなく、すべての哀しい人たちの代弁をしてくれるだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1796e/>

日曜日の雨

2011年1月26日08時37分発行